

女
伏

白秋全集
35

小篇
1

白秋全集 35 第一一回配本(第Ⅱ期二五・三九卷・別卷一)

一九八七年二月九日 発行

定価四〇〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

発行所 〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五番地 岩波書店

電話 〇三・二五・四二二
振替東京六二六四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

小

篇

一九〇九(明治四二)年より
一九三三(昭和八)年まで

目次

小篇

一九〇九(明治四二)年	
新橋	三
一九一〇(明治四三)年	
新しき詩を書かんとする人々に	六
一九一一(明治四四)年	
電気人形	九
一九一二(大正元)年	
わが敬愛する人々に	三
一九一四(大正三)年	
島から帰つて	六

上京当時の回想 附——処女作のことども 元

巡礼提言 二六

巡礼提言第二 二六

一九一五(大正四)年

巡礼提言 其三 三〇

茂吉に与ふ 三三

巡礼提言 其四 三三

阿蘭陀書房の言葉 三四

俗謡の新味 三五

うの字口上 四〇

〔金子製本所広告文〕 四一

一九一六(大正五)年

正覚坊虐殺前 四二

一家言 四八

南瓜の言葉 五五

煙草の花の言葉 五七

「白光」に 五八

葛飾から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六〇

一九一八(大正七)年

新邪宗門宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六四

推讃の辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六五

朱樂から朱樂へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六六

河野村野両君に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六七

新邪宗門宣言(二)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六八

小田原へ(日記の一節)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六九

小田原より(一)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七〇

小田原より(二)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七一

別れの言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七二

再び・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七三

上田敏先生と私・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七四

「都会情調」と「異国趣味」と——「屋上庭園」の追憶—— 七五

はろりとなる一面(吉井勇氏の印象)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七六

小田原より(三)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七七

〔同人多実三の歌を評す〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 七八

お花畑消息	二七
葛飾夜話	三〇
一日一信〔一〕	三二
紫烟草舎解散事情その他	三五
伝肇寺より	三三
一日一信〔二〕	三六

一九一九(大正八)年

小田原より〔四〕	三七
「カルメン」の唄	三九
恋の鳥 カルメンの唄追加	四七
お寺の元日	四九
白光の諸君に	五三
一日一信〔三〕	五五
「哥路」に就て	五八
不思議な李太白	六三
「どうでもしなはれ」〔若山牧水氏の印象〕	六四
苦言	六九

小田原より〔五〕	．．．．．	一七〇
一日一信〔四〕	．．．．．	一七一
わが寺の記	．．．．．	一七二
澤世のおとづれ〔三〕	．．．．．	眠り爺さん〔二七〕
小田原より〔六〕	．．．．．	一七三
小田原消息（尺牘三通）	．．．．．	一七四
一日一信〔五〕——木鬼祭 （怪くともきまつまつ） の事——	．．．．．	一七五
木鬼の家より	．．．．．	一七六
非塩煎餅非流行	．．．．．	一七七
一九二〇（大正九）年		
木鬼の家から	．．．．．	一七八
少年少女と和歌	．．．．．	一九〇
一九二一（大正一〇）年		
五週年に就て	．．．．．	一九一
『寂光』の作者へ	．．．．．	一九三
一九二二（大正一一）年		
新詩会の仕事に就て	．．．．．	一九四

一九二三(大正一二)年

童謡私鈔・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一七

一九二四(大正一三)年

アルスのマアクはこれだ・・・・・・・・・・・・二〇

一九二六(大正一五・昭和元)年

「日光」雑感・・・・・・・・・・・・・・・・・・二〇

古風俚謡鈔・・・・・・・・・・・・・・・・・・二〇

庄亮君の樺太北海道の歌・・・・・・・・・・二二

近代風景開現・・・・・・・・・・・・・・・・・・二七

近代風景の使命・・・・・・・・・・・・・・・・・・二九

朝は呼ぶ1・・・・・・・・・・・・・・・・・・二四

朝は呼ぶ(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・二七

近代日本の詩(三四七)

新律格について(二五〇)

定型詩に対する謬見(二四八)

定型と自由型(二五二)

自由詩について(二四八)

一九二七(昭和二)年

朝は呼ぶ(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・二五

詩人として(二五四)

詩話会の解散(二五六)

日本詩会のこと(二五九)

近代風景の詩(二三)

赤い鳥詩抄について(二六〇)

フリッツ・ルムプのこと……………二六七

[LANDSCAPE]……………二六八

朝は呼ぶ〔4〕……………二七五

嵐

散文詩小論……………二七七

満天下の正義に訴ふ……………二八一

地球の如く——朝は呼ぶ——……………二八七

朝は呼ぶ〔5〕……………二九〇

かくのごとき人

千櫓君と私……………二九一

朝は呼ぶ〔6〕……………二九六

ある日の閑談

千櫓についての断片……………三〇〇

臨終(三〇〇)

有名(三〇三)

青山斎場にて(三〇一)

良心(三〇四)

「日光」創刊当時(三〇二)

碓氷嶺の一首(三〇五)

女(三〇四)

一九二八(昭和三)年

赤い鳥童謡会について……………三〇五

出発の前夜……………三〇七

一九二九(昭和四)年

新民謡所感……………三〇九

全集刊行について……………三二四

同宿時代……………三二五

民謡雑話——白秋氏談——……………三二九

一 百舌の話(三二六)

四 「牛蒡」の話(三三二)

二 「めつちよ勸助」の話(三三〇) 五 「ろくでなし」の話(三三二)

三 「同心棒」の話(三三〇)

初版民謡・小唄集の思ひ出、その他……………三三三

トンカ・ジョンとチンカ・ジョン……………三三八

流行歌と当局の態度……………三三九

思ひ出・雪と花火二つの初版詩集について……………三三六

水郷と生家とについて……………三三九

一九三〇(昭和五)年

乳樹の言葉	三〇
私の立場——犀星君に——	三二
阿蘭陀書房披露歌	三七
邪宗門物語	三九
繊細なる純情の糸	四二

一九三二(昭和六)年

初夏の飛行心理	三五
〔努力〕	三六
日本の秋	三七
作歌の体験	三八

小言(三六)

二、短歌の技巧について(三六)

一、定型としての短歌(三九)

母性は月のごとく	三六
----------	----

一九三三(昭和七)年

春を待つもの	三九
緑の古宝玉 定型を敬愛して	四二

世田ヶ谷の春 三七六

『日本文学大辞典』より 三七七

河井醉茗 朱欒 紫煙草舎 児童自由詩 醉茗詩集 ス

バル 洗心雑話 童謡 萩原朔太郎 バンの会 みだれ

髪 明星 山村暮鳥

幼児の詩 三八七

詩と俳句 三九七

日光の思ひ出 四一七

短歌鑑賞論 四一九

1 短歌鑑賞本論(四一九)

3 国詩提唱(四二二)

2 短歌純理論(四二五)

真実こそは 四六四

批評の態度に就て 四六五

建速須佐之男命に就いて 四六九

一九三三(昭和八)年

短歌断片 四七三

童謡と児童自由詩について 四七五

真の風雅 四七八

力ある表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・四七

後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・四八

小

篇

一九〇九(明治四二)年より
一九三三(昭和八)年まで

